

平成 28 年度事業報告書

学校法人 箕面自由学園

1 設置する学校及び学則定員、在籍者数の状況（平成 28 年 5 月 1 日現在）

（単位 人）

	高等学校	中学校	小学校	幼稚園
学則定員	1,440	240	420	280
在籍者数計	1,583	150	199	265
男子	867	89	123	158
女子	716	61	76	107
1 年	645	53	30	86
2 年	458	48	19	93
3 年	480	49	26	86
4 年			41	
5 年			42	
6 年			41	

※幼稚園の年少組は 1 年欄に、年中組は 2 年欄に、年長組は 3 年欄にそれぞれ表示

2 学費等（平成 28 年度在校生）

	内 容	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
高等学校	検定料	20,000					
	入学金	220,000 (110,000)					
	授業料	546,000	546,000	546,000			
	施設費	36,000	36,000	36,000			
中学校	検定料	16,000					
	入学金	220,000 (110,000)					
	授業料	546,000	546,000	546,000			
	施設費	36,000	36,000	36,000			
小学校	検定料	15,000					
	入学金	220,000 (110,000)					
	授業料	474,000	474,000	474,000	474,000	474,000	420,000
	施設費	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000

幼稚園	申込料	3,000	3,000	3,000			
	入園金	110,000	100,000	90,000			
	保育料	288,000	276,000	276,000			

※授業（保育）料および施設費は年額表示

※入学金欄の（ ）内は、内部進学者適用額

※幼稚園の年少組は1年欄に、年中組は2年欄に、年長組は3年欄に表示

3 役員に関する事項（平成29年3月31日現在）

理事定数 12～17名 現員 14名

監事定数 2名 現員 2名

4 評議員会・理事会の開催状況

	評議員会	理事会
第1回	平成28年 5月25日	平成28年 4月13日
第2回	平成28年 6月13日	平成28年 5月25日
第3回	平成28年 12月14日	平成28年 6月13日
第4回	平成29年 3月8日	平成28年 7月13日
第5回		平成28年 9月14日
第6回		平成28年 10月12日
第7回		平成28年 11月9日
第8回		平成28年 12月14日
第9回		平成29年 1月11日
第10回		平成29年 2月8日
第11回		平成29年 3月8日

※桂門懇談会（拡大評議員会） 9月14日

5 教職員数（平成28年5月1日）

（単位 人）

	人員	専任	常勤	非常勤
合計	246	108	52	86
教育職員	165	89	39	37
高等学校	105	50	27	28
中学校	16	11	1	4
小学校	22	16	4	2
幼稚園	13	8	5	0
本部	9	4	2	3
事務職員等	81	19	13	49

高等学校	16	2	2	12
中学校	3	1	0	2
小学校	11	0	1	10
幼稚園	14	0	0	14
本部	37	16	10	11

※アルバイトは、非常勤欄に表示

6 事業の概要

(1) 平成 28 年度 施設・設備（主な新設・改修・設置等）

* 高校、校舎増築工事（平成 28 年 4 月 1 日竣工）

事業目的

平成 28 年度生徒数増に伴う 2 階建 4 教室の増築工事を行った。

増築費用

投資額 72,403,000 円（資産 68,525,000 円 経費 3,878,000 円）

* 高校、寮室増設工事（平成 28 年 4 月 1 日竣工）

事業目的

寮生増に伴い 3 階に寮室 2 部屋の増設及びトイレの洋式改修工事を行った。

改修費用

投資額 6,756,000 円（資産 6,328,000 円 経費 428,000 円）

* 高校、グラウンド防球ネット取替（平成 28 年 8 月 13 日竣工）

事業目的

防球ネットの経年劣化（昭和 57 年 4 月設置 32 年経過）による損傷が著しい為、張替工事を行った。

改修費用

投資額 9,828,000 円（資産 9,828,000 円）

* 高校、グラウンド砂補充、整地工事（平成 28 年 8 月 13 日竣工）

事業目的

グラウンド内の砂が流出している為、砂の補充整地及び流出防止工事を行った。

改修費用

投資額 4,320,000 円（資産 721,000 円 経費 3,599,000 円）

(2) 高等学校の教育充実

平成 28 年度の入学者は募集定員 480 名を大幅に上回り、645 名となった。これはこの間、高等学校全体の取り組みへの外部評価が定着してきたものと考えられる。挨拶、ルールの遵守、マナーの向上を念頭置いた生徒指導、進学への取り組みと実績、クラブ活動への取り組みと実績等、生徒、保護者の満足度の高まりが外部評価につながり、本校への受験者増につながったと思われる。

高校3学年の在籍者の一人ひとりが、愛校心を持ち、「本校の生徒であること」にプライドを持てるように、教職員一丸となって、取り組んでいく必要がある。

4つのコースがそれぞれの特徴を活かし、取り組みを強化していった結果が出てきているように思われる。

進学実績の詳細については、別紙（進路状況）を参考にさせていただきたいにあるが、京都大学1名、大阪大学3名、神戸大学1名（全員、現役合格）と京阪神大学に合格した。

これはいままでの取り組みが定着してき、教師側にも確実にノウハウの蓄積が出来てきたように思われる。

特別進学コースからも、大阪大学を始めとする難関国公立大学、同志社、関学などの難関私立大学への合格が増加してきている。

総合進学コースも、推薦入試への依存的体質から脱却し、一般入試へ向けての取り組みの強化を図ってきた。

その結果、大阪大学1名、立命館大学、関西大学などの難関私立大学の合格も増加傾向にある。

クラブ選抜コースは、それぞれの強化クラブが日々の継続的な努力の結果、輝かしい実績を出してきている。

理事会の強い方針通り“マナー”教育を全ての教育の原点とし、挨拶・言葉づかい・身だしなみ・ルール厳守の徹底に努め、その成果が目に見える形で表れてきた。今後とも、極めて上質の“普通の学校”に向けた“しつけ”教育を継続する。

(3) 中学校の教育充実

教科別習熟度（英・数・国）はそのままに、放課後の時間を用いてアドバンスクラスのための「発展」講習とベーシッククラスのための「基礎固め」補習を新たに実施した。また放課後に行っていた外部講師によるチューター制度を廃止し、主要5教科の補習を中学校の教員で行う形に変更した。これはチューター制度が導入される10年前の中学校の補習システムに回帰するものであり、外部の講師に任せるのではなく、中学生を直に指導する時間をより多く確保できるようになったのは、教員が中学生との信頼関係を深めるためにも大変有効な方向転換だったと言える。

行事における大きな改善、変更の1つは1・2年生の夏期学校後に行った「夏期学校報告会」が挙げられる。これは多数の保護者が来校する学園まつり当日に合わせて、中学生が夏期学校における体験や学びを報告するものであり、事前学習だけでなく、事後学習も大切にしようとする狙いで実施した。もう1つの大きな変更として挙げられるのは「MJG フレンズ」という人権学習である。この取り組みは「学校生活が充実していればいじめは生まれにくい」という近年のいじめ防止の考え方をベースに行ったもので、昨年までの教員主体の「命の授業」とは違い、子どもたちが主体となり意見交換しながら人権問題について調べ学習を行い、発表の準備にあたった。情報収集のために自分達でアポをとり、外部機関を訪れたグループもあり、インターネットに頼らない調べ学習の大切さに気付くことができた。発表方法自体もパワーポイントの作り方のノウハウを教員に学び、自分達なりに工夫して行ってい

た。今年度も引き続き行う予定である。また小学校の情報教室完成にともない、中学生も修学旅行のパンフレット作成のために数時間利用させていただいた。その事前準備として教員対象のタブレット研修を行い、授業当日にも外部講師にお手伝いいただきながら進行することができた。

対外的な発信を強めていくという目的で HP の更新頻度を上げることに力を注いだ。昨年度は毎月一度必ず新しいトピックをアップすることに成功した。対外的なアピールのみならず、在籍の中学生やその保護者が閲覧していると聞き、学校の取り組みを知っていただく良いツールだと改めて感じた。

年に6回行われた募集のための学校説明会では、MJG フェスティバルの優勝チームが参加者を前に合唱を披露したり、自治会の生徒に司会進行を任せたりと各回工夫を凝らして行った。プレテストの1週間後に実施したプレテスト解説会では受験者の2人に1人は参加していただき、最終回は教室を増設しなければ参加者が入りきれない状態であった。プレテストや学校説明会の参加人数は過去最大となったが、結果的には入学者数は昨年とほぼ変わらない状況であり、より一層、募集の努力を続ける必要があると感じている。今年は入試相談の人員を5名に増やし、私学受験を前提とした通塾生以外もターゲットにしながら進めている。

(4) 小学校の教育充実

平成 28 年度も前年度に引き続き、1年生から授業に「思考表現」の時間を設置し、その充実を図った。学年ごとの発達に合わせて、楽しみながら自分で考え、友だちに伝える実践的な課題をかす「思考表現」の時間を6年間通して実施し、6年生はその集大成として4000文字程度の卒業論文をパソコンで入力し、完成することができた。

教師研修として平成28年度は、年間を通して全クラス担任・専科の教師が授業を公開し、お互いに参観し合い、事後に議論することによって、個々の授業力の向上に努めた。その成果として、教育実践先進校として姫路市教育委員会から依頼を受け、10月に約40名の先生方の視察を受け、本校の授業を公開し、互いの教育実践を交流することを通して教師力の向上につながった。

また、新たな学校設備の充実として、以下の二点を行った。

- ① 園所有のバスを利用し、登校時一便に限り、関電学園前バス停～箕面自由学園小学校までのスクールバスの運行を始めた。17名の利用者があり、171号線のバス通学をする子どもたちの安心安全な登校が実現できた。
- ② 情報教室の整備を行い、タブレット型パソコン30台を導入し、まずは、キーボード入力スキル、タブレットの活用スキル、インターネットの活用スキルなどを1年生から学習できる環境を整えた。これによって2020年度必修となるプログラミングの学習にも対応できるようになり、その導入の準備を始めた。

さらに、課外活動の一層の充実を図り、元宝塚ジェンヌの講師を迎えて合唱・合奏を楽しむミュージッククラブと、バイオリン専門の音楽教師によるバイオリン教室を開設した。どちらも申込みも多く、楽しく活動を進めている。そして、預かり保育のわくわくホームは、好評による参加者増のため、教員スタッフを増員し、より一層の内容充実を図り、ますます参

加者を増やしている。

(5) 幼稚園の教育充実

幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領が新たに告示され、どのような形態の施設に通園していても、3歳児以降の保育教育の共通化が図られることになってきた。これまで以上に、きたるべき未来社会を生きる力の育みを念頭にしてのことと考えられる。今回の改定に現行要領の大きな変更はないが、教育要領の5領域を総合的に達成する視点から、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として具体的に10項目が提示された内容となっている。

保育教育実践としては、すでに毎年の蓄積と実績のあるものだが、幼稚園運営の目標と方針にもとづく各学年の年間保育計画や、月間保育計画、そして週間の保育計画の実際的な展開まで視野に入れて、振り返った検討をすすめていくことが求められている。

保育活動は同年齢の学年を基盤にしているが、異年齢集団のなかで促される成長の契機を重視して、「兄弟クラス」の取り組みや、いろいろなあそび道具を使って年少・年中・年長が一緒になって活動する「なかよしデー」の取り組みを、年間で8回実施してきた。

幼稚園の教育目標ともなっている体験と感動を軸にする活動のなかで、農園での夏野菜をはじめとする栽培活動や果樹園での収穫等を、給食室での食材の調理と結び合わせて栽培から給食までの総合的な食育に取り組んだ。また、生の舞台に親しむ活動を重視し、毎月の誕生日会でピアノ・ヴァイオリン・和太鼓の演奏をはじめ、狂言やフラメンコ、タップダンスや人形劇等、芸術芸能の鑑賞をとおして生まれる感動が子どもたちを陶冶する力には特筆すべきものがある。

さらに各家庭の子育て支援の一環である「あすかり保育」は、年間239日間実施し、早朝と延長を含めるその延べ人数は約1500名に達している。また、地域の子育て支援となっている「ふれあいサロン」についても年間17回、延べ組数は約470組に及んだ。家庭における子育て支援を熱望する大きな声を聴く思いがする。

7 当期の業績（財務状況）

(1) 資金収支の状況

高等学校では1年生が645名となり、前年度と比べて学生生徒等納付金収入と授業料に対する補助金の合計額では136百万円の増収となった。中学校、小学校の学生生徒等納付金収入は減収、幼稚園は増収となり、学園全体の授業料関係の補助金を含む学生生徒等納付金収入は124百万円の増収であった。

人件費については、高校の生徒数増による教員増があったものの、退職者数の減少により、46百万円減となった。その他の経費については、維持修繕費の抑制などで予算額内の執行にとどめ、収支均衡に努めた。

施設・設備関係支出では、高等学校校舎増築工事、高等学校 防球ネット改修工事、会計等システム導入費等があった。

(2) 事業活動収支の状況

事業活動収入は、2,073 百万円となり、前年度比 4.3%増となった。

基本金については、施設・設備の充実により第 1 号基本金を 175 百万円組入れた。

事業活動支出は、1,997 百万円となり、前年度比 2.8%増となった。

基本金組入前当年度収支差額は、75 百万円の帰属収入の超過となった。

引き続き、児童生徒の安定的確保と、支出における経費の有効的な活用により、更なる財務の健全化を図っていく。

8 資産総額（登記事項）

平成 28 年 3 月末日の資産総額は、
54 億 1653 万 5634 円（平成 28 年 5 月 26 日登記）であり、
対前年比 4447 万 8369 円の増額であった。

9 施設関係（平成 29 年 3 月 31 日現在）

(1) 校 地

（単位 m²）

	合 計	高等学校	中 学 校	小 学 校	幼 稚 園
運動場敷地	20,669	9,279	4,676	4,349	2,365
建 物 敷 地	28,546	19,211	1,146	6,306	1,883
合 計	49,215	28,490	5,822	10,655	4,248

(2) 校 舎

（単位 m²）

	合 計	高等学校	中 学 校	小 学 校	幼 稚 園
校 舎					
建築面積	7,852	4,738	866	1,451	972
延床面積	17,870	12,039	1,685	3,033	1,415
体育練習場					
建築面積	3,965	3,965	0	0	0
延床面積	6,486	6,486	0	0	0
合 計					
建築面積	11,817	8,703	866	1,451	972
延床面積	24,356	18,525	1,685	3,033	1,415